

令和2年度 市民意見交換会（福祉文教常任委員会）

《令和2年7月21日》

意見交換の相手団体：びーす&ピース

意見交換会のテーマ：知的発達障害の理解啓発について

主な意見（一部抜粋）

・知的発達障害の疑似体験を通し、知的障害を持つ方の思いや現状を少しでも理解していただくため分かりやすく、そして楽しく体験していただけるように活動している団体。



・疑似体験を通して理解を求める活動をしている団体は全国に90チームあり、そのうち知的障害の啓発隊は7チームある。昨年、内閣府が実施する研修会に全国で2チームの内の1つに選ばれて参加しており、そのような活動を応援していただけるとありがたい。

・知的障害者の方が地域で住みやすくなるには、少数の専門家よりも、専門知識がなくてもいいから、その人を理解してくれる地域の人が多くいる方がよい。

・言葉だけでは通じない時は、視覚支援に頼ればよい。

・たつの市は、知的発達障害の人に対しての住民理解は日本でトップクラスであり、こういうまちがずっと続いて欲しい。

・逆に、施設内のエレベーターなどのハード面に対しては、不十分な点がたくさんあり、それに対して声を上げるパワーがたつの市は小さい。

・逆ヘルプマーク（※）などの制度を導入してもらえるとありがたい。

※障害などでサポートを必要としている人が、街中で助けを求めやすくなるように、困っている人を助けたいと思っている人が身につけるマークのこと。

《令和2年11月20日》

意見交換の相手団体：たつの市PTA協議会

意見交換会のテーマ：コロナ禍における学校生活について

主な意見（一部抜粋）

・夏休み期間中の登校になり、教室のエアコン、スポットクーラー、サーキュレータが設置されたことは非常にありがたく、これからのウィズコロナに向けていい形ができた。



・保護者に対して、情報開示できないことへの理解を得ることが難しく、市が主体となって、個人情報に関することは開示できないということを公言してくれれば、保護者は納得できたのではないかと。その結果、学校が隠蔽しているのではないかと感じてしまう。

・コロナの収束が難しい中、これからもこのような交換会の場を通じて、親の意見を聞いていただきたい。

・コロナに対しては、誰もが偏見を持っている中で、自分の中で偏見を持つ分には偏見で終わるがそれを表現すると差別になり、情報発信のあり方についても検討していくべき。

・自然学校や修学旅行が中止になる中、批判を覚悟で予防対策を行いながら、ハロウィンイベントを実施。準備は大変だったが、子供たちから「またしてね」という声をもらい、苦勞が報われた。

・休校中、各学校で学習方法が様々で、どのような形で子供たちが理解したのか、他の学校の取組状況を知りたかった。

・6月の学校再開後、子供たちが同じ空間にいて、顔と顔を合わせて通わせることの大きさを教職員は改めて感じた。

・学校行事について、実施しないことが1番安全だが、どうすれば実施できるのか、できる方策を探りながらやっている。

・今年度は、コロナ対策に係る多額の補正予算を計上いただき大変ありがたく思っている。しかし、今年度予算は3月31日までとなるため、コロナの収束が見込めない中、4月1日以降不安な思いである。（学習指導員、スクールサポートスタッフのおかげで教職員は本来の業務に専念できている。）